

平成 30 年度第 2 回千葉県がん対策審議会 予防・早期発見部会 議 事 録

1 日 時 平成 31 年 3 月 11 日（月）午後 6 時から 7 時 20 分まで

2 場 所 千葉県庁本庁舎 5 階 大会議室

3 出席委員 藤澤部会長 羽田委員 海村委員 高原委員 林委員 河西委員
山口委員 中山委員 千葉委員 加藤委員 池田委員 山崎委員
欠席委員 橋本委員

4 議 題

(1)がん検診精度管理調査について（集団検診機関結果）

5 内 容

議題（1）がん検診精度管理調査について（集団検診機関結果）

【事務局より資料 1-1～1-2 に基づき説明】

○藤澤部会長

資料 1-1 について、21 機関にアンケート調査を実施した選択基準はなにか。

また、8 機関を対象として、6 機関から回答を得たという数の説明をしてほしい。

○事務局

胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、全ての調査対象が 21 機関である。

21 機関のうち肺がん検診の対象となったのが、8 機関で、そのうち回答があったのが 6 機関ということ。

○林委員

胃がんについて、回答がなかった 2 機関はなにか理由があるか。

○事務局

確認はしていないが、調査が見逃されてしまったこと等が考えられる。

○林委員

未回答の機関に対してなにか、働きかけを考えているか。

○事務局

特に、郡市医師会だと事務局が 1 人であったり、なかなか働きかけていくことは難しいが、回答機関を増やしていくことは大事なことを考えているので、何らかの働きかけを行っていきたいと思う。

○山口委員

返信があった機関は、A、Bの機関であって、×が多いと出さないと考えるのが普通ではないか。点数が悪くても出してもらうような働きかけをしていった方がよいのではないか。

○藤澤部会長

回答がなかった検診機関にきちんとしてもらうことがむしろ大切である。

市町村からみれば回答がなかった検診機関がわかるため、市町村から働きかけてもらうことがポイントではないか。

県としては、市町村に予防・早期発見部会からこのような意見があったとして、働きかけることはできるか。

○事務局

がん検診の委託者は、市町村であるので、市町村へ研修会等で働きかけていきたい。

○藤澤部会長

予防・発見部会として、市町村へ働きかけていくことはできるか。

○事務局

精度管理調査自体、予防・早期発見部会の名前で実施している。市町村に対しても、予防・早期発見部会で意見があったことをプッシュできるので、市町村研修の場等で、働きかけていく。

○藤澤部会長

あくまでも検診機関のみに調査票を配布して、実施している調査であるため、市町村にも本調査のことを知ってもらうことをこの部会としてもお願いしたい。

○羽田委員

チェックリストで、精度管理がされていて問題が起これなければよいが、実際に千葉市で問題があった。問題があった時に、精度管理がされていない機関に委託していた市町村が責められる可能性があるため、市町村を守るためにも実施していると伝えた方がよいのではないか。

○藤澤部会長

Aの機関も少しずつ増えてきており、いい方向に向かっている。

○羽田委員

公開するのは、公開（案）と記載されている表紙だけなのか、グラフや個別の質問回答一覧も公開されるのか。

○事務局

グラフ、一覧も公開する。

○羽田委員

検診機関として、今足りない部分がどこなのか、明確にわかるようになっている。
×があるところがどうしたら○になるのか、わかるような公開方法でよいか。

○事務局

はい。

○藤澤部会長

大腸がんについて、前回よりも A が増えてきているが、いかがか。

○山口委員

提出している機関は、優良機関だけで、これを見て千葉県が優れているとしていいか。これを採用してよいか。

○藤澤部会長

これはこれで正しい。これを公表することによって、市町村が委託している検診機関がもしここに入っていなかったらわかってしまうので、そういう資料として、この資料は重要である。

○山口委員

千葉県が A と B ばかりではなく、出していない機関が、大事だと思う。

○藤澤部会長

データの利用を十分にさせていただければ。悪いところを隠しているわけではない。

○山口委員

データの扱いとして、そういったところを適切にやっていただきたい。

○藤澤部会長

肺がん検診について、なにかあるか。今年度は、3 機関回答が増えている。

○羽田委員

回答欄の斜線の意味はなにか。

○事務局

施設で該当がないという項目。○でも×でもない意味になっている。

例えば、4. 喀痰細胞診で斜線になっている機関が多いが、これは自施設では行っていないという意味になっている。

○羽田委員

胸部 X 線だけで判断しているということなのか、喀痰細胞診を実施しているが結果を受け取って返しているだけなのか。

○事務局

確認したい。

○林委員

喀痰細胞診について、斜線があつて、○がある意味はなにか。

○山口委員

予防財団は、外部委託していない。自施設で実施しているので斜線になっている。

○中山委員

委託機関を仕様書に明記しましたかに斜線があつて、それ以降○がつく機関について、検体をそのまま渡すのか、スライドを作った状態で渡すのかによって、記載が違ってくると思う。委託の仕方によって記載の仕方に違いが出ると推察する。

○藤澤部会長

国立がん研究センターが出している記載を確認して、次回説明していただきたい。

○山口委員

つけ間違いがあるかもしれない。

○藤澤部会長

解釈の問題もあるかもしれないが、国立がん研究センターのものを確認していただく。

○河西委員

昨年度回答していたが、今年度回答していない機関はあるのか。

○事務局

何機関かある。胃がんは 1 施設、大腸がん 2 施設、肺がん 1 施設あつた。乳がん、子宮頸がんは昨年度と変わらない機関から回答をもらっている。

○藤澤部会長

昨年度、公表しているのので、表の中に昨年度の結果を組み込むことも可能なはずである。昨年度は評価があつた、今年度は評価無しという結果も表の中に入れればよいと思うが。公表上問題になりそうか。

○事務局

指摘いただいた点を踏まえ、どのような形で公表するか、デザインも含めて検討する。

○藤澤部会長

前年度、公開しているため、普通に考えれば、表に入れても問題はないと思う。事務局で検討してぜひお願いしたい。

子宮頸がんについては、いかがか。

○河西委員

特になにもない。

○羽田委員

本来ならば、全ての機関の名前を出して、公表するのが理にかなっているが、反発も考えられるので、いけないという判断でよろしいか。集団検診機関は公的な機関であるため、厳しめにしてよいと考える。個別検診機関は、問題になる場合も考えられるが。

○藤澤部会長

その件については、乳がんについての検討が終わってから、ディスカッションしたいと思う。

乳がん検診についてはいかがか。特にないようなので、羽田委員からあった公表の仕方について、市町村の立場で、加藤委員いかがか。

○加藤委員

全てを公表するのはありだと思うが、いきなり実施してしまうと厳しいように思う。

○藤澤部会長

検診機関の公表は今回で4年目か。

○事務局

公開ということでは、30年度は3回目。

○藤澤部会長

1年目は公表しないで、今回は4年目となっている。公開の同意を聞いているか。

○事務局

アンケートの回答があったことで、公開をしてもよいという認識をしている。また、回答をまとめた後に、公開するために内容等間違いはないか、確認を取っている。その時に併せて、公表不可の場合は、連絡をもらうよう確認をしている。

○藤澤部会長

返事が来ていないところも含めて、全てにそれを行っているということによろしいか。

○事務局

回答があったところのみに確認している。

○藤澤部会長

未回答の機関を公表することは、まだ早すぎるということか。調査を実施してもう4年目。公表も3年目に入ってきている。

○加藤委員

本来であれば、未回答の機関も出すべきと考えるが、なぜ回答しなかった等、理由がわからないとなんとも言えない。

○山崎委員

はっきりした答えをもっているわけではないが、昨年度回答があって今年度回答がなかった機関は、もしかしたら、公表しないでほしという意思の表れではないか。回答をしなかったところに公表してもよいか許可を取っているか。

○藤澤部会長

調査をする際に、内容はオープンになると断って調査をしているから、回答がなくても、未回答ということ公表しても文書上は問題ないと理解している。

○中山委員

回答しなかったところも公表すべきと思う。

○河西委員

公費の対策型検診を実施している機関の評価をやらなければならないと思うので、公表すべき。子宮がんに関しては、東京都で、精度管理部会があり、各機関の成績を出している。成績があまり芳しくない医療機関には、立入調査を実施している。

○高原委員

基本的には、公表すべきと思うが、回答がない理由をはっきりさせるべき。回答がないイコール、公表してほしくない、結果が芳しくないが前提の話になっているような感じがする。そのようなことならば、非常に芳しくないことで、必ず公表しなくてはならないが、それではない、面倒や忘れたといった理由であったら、そこにアクションしていないところに問題がある。理由を知った上で、再度検診機関に回答を依頼し、公表した方がいい。

○池田委員

市町村の立場として、精度管理をしっかりしてほしいことを検診機関に伝えにくいところがある。そうすると、部会としての意見は重要になってくる。結果を公表してよいか確認しているので、回答がなかった機関も記載した上で、照会してはどうか。

○千葉委員

公表すべきと思う。

○山口委員

公表した方がいいと思うが、高原先生の意見に賛成する。部会には、財団の委員が多くいるので、財団の利益のために公表するのではないかと誤解されないように、回答がなかった機関に回答をもらえるようなアクションをして、それから、公表した方がよいと思う。

○林委員

検診受診者の立場でやっていくべき。公表するという前提があれば、回答しないのも1つの意思として公表してよいと思う。

○海村委員

昨年度回答があったが、今年度回答がなかった機関について、評価はわかるか。

○事務局

胃がん検診についてはB評価。大腸がん検診はAとB評価。肺がん検診については、A評価であった。

○海村委員

評価が下がりそうだから、回答しないというわけでもなさそうである。どうして、回答がないのか、わからない。その検診機関にとっては、負担が重いアンケートなのかもしれないのか。

○事務局

回答がなかった理由を聞くような体制で現在まで実施してこなかった。今回の御意見を踏まえて、まずは、回答がなかった理由を把握した上で、次の段階を検討する必要があると考える。

○海村委員

様々な理由が想像できるが、部会として、公表することが決まれば公表をしてもよいと思う。

○藤澤部会長

回答がない理由をチェックするが、原則公開をしていく方がいいのではないかと
いうことが全員の意見であるが、これをすぐに30年度のものに反映するのではなく、
31年度の方角としてやっていくこととする。

○事務局

貴重な御意見ありがとうございました。

皆さんの意見はよくわかり、まさしくその方向にすべきであると思った。

今年度まで出してきた依頼文が、中途半端な書き方になっており、回答いただいた
内容はホームページに掲載する予定となっているが、A、B、Cの成績表まで出ると
は、おそらく相手方は認識していない。×が見えるというのはわかるが、ランク付け
のお示しの仕方はしていなかったもので、いきなり、A、B、Cといったランクで出し
ていくというのは、特に成績が悪いところに関しては難しいのではないかと思う。来
年度以降は、依頼の時に、調査の意義や回答がなかった時の対応等、しっかり依頼文
の中に落とし込んで、依頼をしていきたい。

○藤澤部会長

31年度は、ぜひそのような方向でお願いしたい。

○中山委員

調査票は、国立がん研究センターの雛形集を使用しているが、国の評価の仕方がこ
のような評価になっているのか。

○事務局

はい。

4 その他について

【事務局より説明】

○藤澤部会長

この調査を実施していくには、たくさんの労力がかかる。市町村、地区医師会のご
協力がないとできない。

ただ、集団検診の精度管理調査だけやればよいということではない。個別検診も当
然同じようにやっていくべきである。

県の市町村や医師会の方への説明でここまで来ているのだろうと予測する。なかな
か難しい問題が含まれていたと思う。

○羽田委員

個別検診は、クリニックで判断して、回答が来るのか。それとも市町村で、医師会
の中でダブルチェックをする等システムもあるが、そのようなシステムをどこの市町
村でもやっているのか。

個別検診機関の調査票にそのような項目があるのか。

○事務局

参考資料でも、調査票を載せたが、集団検診と個別検診では、ほぼ同じ項目になっている。

○羽田委員

今後、訴訟が増えてくると思う。ダブルチェックをしても、やむを得ない状況もある。リスクがある状況であると考え、個別検診機関に関しても、ハードルを高くして、集団検診機関同様、公表するという形にした方が、結局は個別検診機関を守るという形になるのではないか。その辺りを理解できる文章にして依頼するのがよいと思う。

○事務局

依頼文としては、今回お示しの資料とは別に、正式な依頼文を付けて送っている。

○藤澤部会長

もう少しちゃんとした資料が事務局にはあるが、まだ調査途中であるため、確実な資料になってからお示しした方がよいということで、本日は、口頭での説明のみになっている。

市町村の検診は医師会に事業委託して、医師会が全体を統括するのと、市町村が、直接開業されている先生と契約している形と、大きく分けてこの2つがある。それによっても違ってくると思うので、それに合わせてデータを示していければいいと思う。

集団検診も個別検診も、なかなか難しい時代に入ってきている。

○山口委員

参加しなかった市町村については、公表しないのか。

○藤澤部会長

集団検診機関については、何年も前から実施しているが、個別に関してはスタートして間もない。一挙に進めると難しいところもあるため、ゆっくりやろうとしており、まずは、乳がん・胃がんで調査を始めた。ゆっくり始めていかないと、市町村や医師会とうまくまとまっていけない。

○山口委員

自分が住んでいる船橋市、胃がん X 線の精度管理の状況が気になる多古町は、情報が知りたいという興味があるが、それはまた次年度以降で。

○藤澤部会長

ゆくゆくは、五大がん全体で、54 市町村やっていただくようになると一番よい。

○河西委員

子宮頸がんについての調査は、いつ頃からスタートになるのか。

東葛は、子宮頸がん検診は、ほとんど個別で実施している。集団検診が入っていないので、その地区の子宮頸がん検診の成績がわからないため、できれば子宮頸がん検診は、早めに調査に入れてほしい。

○藤澤部会長

来年度になってから、この部会でデータをお示しいただき、具体的に議論していただきたい。

それでは、本日の議題は、以上になる。全体を通して、何かご発言はあるか。

○加藤委員

袖ヶ浦市では、精密検査を受けなかった方へ調査をしている。集計が全て終わったわけではないが、多かった意見として、いつも同じ結果だからそのあとの精密検査に行かないや、少数だが怖くて行けないといった回答もあった。

今後、がんは早期発見で治る病気であること等、がんの正しい知識を普及して、安心して次のフェーズに移れるような関りを医師からしていただけるとよいと思ったので、要望として願う。

○藤澤部会長

予防・早期発見部会でのマターでもあるし、普及啓発の部会もあるので、そこと連動しながら、市町村の普及啓発はとても重要だと思う。講師を立てて、市町村の方にお話をするのが必要であつたらぜひやっていきたいと思う。事務局と再度話を詰めていきたい。

○事務局

がん教育については、がん教育推進協議会を準備中であり、あくまでも学校教育でのものであり、一般での普及啓発については、この予防・早期発見部会の他、情報提供について、がんと共生推進部会を立ち上げたので、その範疇になる。

もちろん学校についてもがん教育を進めていく。

○藤澤部会長

この部会とがんと共生推進部会で協力しながらやらせていただけたらと思う。

【議事終了】